

神保町でのビジネス・コミュニティー 文化人類学の視点から見る本の街

スーザン・テラー様

紹介者 今本 義子会員



なぜ神保町はデジタル時代に古本屋が百店舗以上残っているのでしょうか？古本の町・神保町を理解しなかったの、ハーバード大学で文化人類学を専攻しました。文化人類学というのは人間を文化・社会の面から研究する分野です。

私が初めて神保町に来たのは 2004 年です。その時と今では随分お店が変わりました。例えば、明治時代から創業しているジョンレノンのメガネを揃えているメガネ屋さんがありましたが、今は薬局になっています。私は岩波ブックセンターが閉店し、店の看板を書き換える瞬間を偶然目にしました。とてもダークな気分でした。神保町の窓口の岩波ブックセンターがなくなるのがとても心配でした。

スペインの作家、ジョージ・カリオンは、本の文化について書いています。「書店は考古学的な場所、アーカイブのようだ。文化にとって重要な役割を果たしていますが、調べにくいアーカイブで、文化の歴史がきちんと残っていない。」と書いています。

私の研究でその調べにくいアーカイブを示したいと思います。神保町には明治時代から古書店が集まっていますが、本の流通の仕方が今とは違います。流通は文化の歴史とつながっています。

東京古書会館は古本の流通としては心臓部分です。ほぼ、平日の毎日に交換会がありますが、交換会は大変手間がかかる仕事です。

私は最近、「テキスト…編物」を考えています。古本の流通はこのイメージの方が合っていると思います。

存在する本を、売りたいもの、処分するもの、直すものを選別し、また、流通させます。古本屋さんはいサイクルです。

私は北沢書店で毎週火曜日と金曜日に手伝っています。北沢さんのおかげで参与観察ができます。北沢さんは自由なものを紹介して下さいと言ってくれましたので、Instagram と Twitter で面白そうな本を紹介しています。私は興味がありませんでしたがシャーロック・ホームズの初版をアップしましたところすぐに売れました。

もう一冊は、250 年前のアメリカの独立戦争で敗戦したイギリスの将軍が書いたものです。終戦後に戦争は何かと疑問視している時に書いたものです。今も地球上で戦争が起こっているの、負けた側の思いや分析を読んだ方が良いと思うと Instagram にアップしました。

ビジネスには良いところがあっても、悪いところもあります。古賀書店は去年の 12 月に閉店しました。大変ショックでした。クラシック音楽関係の書籍を扱っていましたが、オンラインで売ってはいますが店舗で販売しているのは古賀書店だけでした。古賀書店の閉店は流通に大きな影響があります。

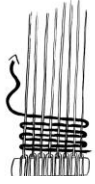
テクノロジーとしての本の論理

本はテキストを保存する芸術です。何冊かコピーを作れば、どこかで少なくとも 1 冊は残り、またコピーができます。だから大昔のグリンシアの本が残っているのです。これはとても良いテクノロジーです。

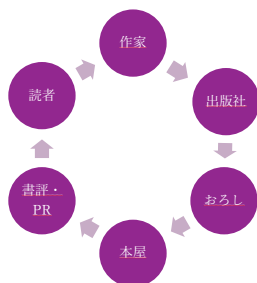
神保町の役割は本の保存と流通だと思います。古本屋さんは古本を次の世代に渡しているの、保存の役割を担っています。

この町のビジネス コミュニティは、皆さんが組合に参加しているので存続出来ています。また、小さい本屋さんは本をケアしているので続いています。

神保町の将来を考える時、サークルではなく、編物のような、(行ったり来たり) サイクルで考えた方が良いと思います。



本の流通



本の流通

英語の「テキスト」は実はラテン語からきて、もともとの由来は「編み物」です。「編み物」は古いイメージですが、とても重要で今日の話のキーポイントで